

おわりに

アドボカシーの広がりへの予感と期待

ここまで、「患者アドボケートと歩んできた3年間の記録」を読んでもいただき、ありがとうございました。この3年間で進展したことを、2章において「芽生える」→「つながる」→「学び合う」→「広がる」→「未来を拓(ひら)く」といった“よい循環”として描くことができました。

すなわち、①患者アドボケートが、がん対策やがん医療は、政治や政策によって左右される側面が強いと発見し、②アドボカシーに取り組む仲間がいたことで喜びとやりがいを感じ、地域や所属を超えるネットワークを形成し、③知識や情報が共有される学びが進み、④各地で草の根的に生じた創意工夫や好事例がネットワーク上で各地に伝播され、⑤患者アドボケートがリードすることで、異なる立場の多くの人々が一体となって取り組む“六位一体”のスタイルが広がりつつある――。

がん政策情報センタープロジェクトは、こうした好循環に弾みをつける“場を提供”し、効果がより強くなることを応援しようとしてきました。少しでも貢献ができたのだとしたら、スタッフ一同、望外の幸せです。

いま、がん対策推進基本計画が第1期(2007～2011年度)から第2期(2012～2016年度)に移るという節目にあります。今後のがん対策が成果を生み出すか、その成否を握るのが、アドボカシーがつくる好循環のさらなる深まりと広がりであることは、多くの人々が同意するところでしょう。そのために、これまでの達成と課題を振り返っておくのは、意義あることだと思います。

なお、本報告書で取りあげられた活動はごく一部の範囲である点をご了承ください。書ききれなかった多くの方々のさまざまな取り組みや、道を切り開いた先人たちの活動があったことを想起してお読みいただければ幸いです。

みなさまのご支援とご活躍なしには、本プロジェクトの遂行は不可能でした。この場を借りて、がん政策情報センタープロジェクトへのすべての参加者・ご協力者の方々に、心より感謝の意を表します。

特定非営利活動法人 日本医療政策機構 市民医療協議会
がん政策情報センター長 埴岡 健一

「がん政策情報センター」第1期プロジェクトの期間(2009～2011)、市民医療協議会は下記の方々からのご支援をいただきました。なお、プロジェクトの内容に関して、支援元が関与することはいっさいありません。

The Pfizer Foundation Global Health Partnerships (米国ファイザー財団)、ファイザー株式会社

インテル株式会社、MSD株式会社、協和発酵キリン株式会社、中外製薬株式会社、日本イーライリリー株式会社、Pfizer Inc.、

バイエル株式会社、ブリストル・マイヤーズ株式会社

がん政策情報センタープロジェクト 第1期(2009～11年)報告書
—患者アドボケートと歩んできた3年間の記録—

2012年1月25日

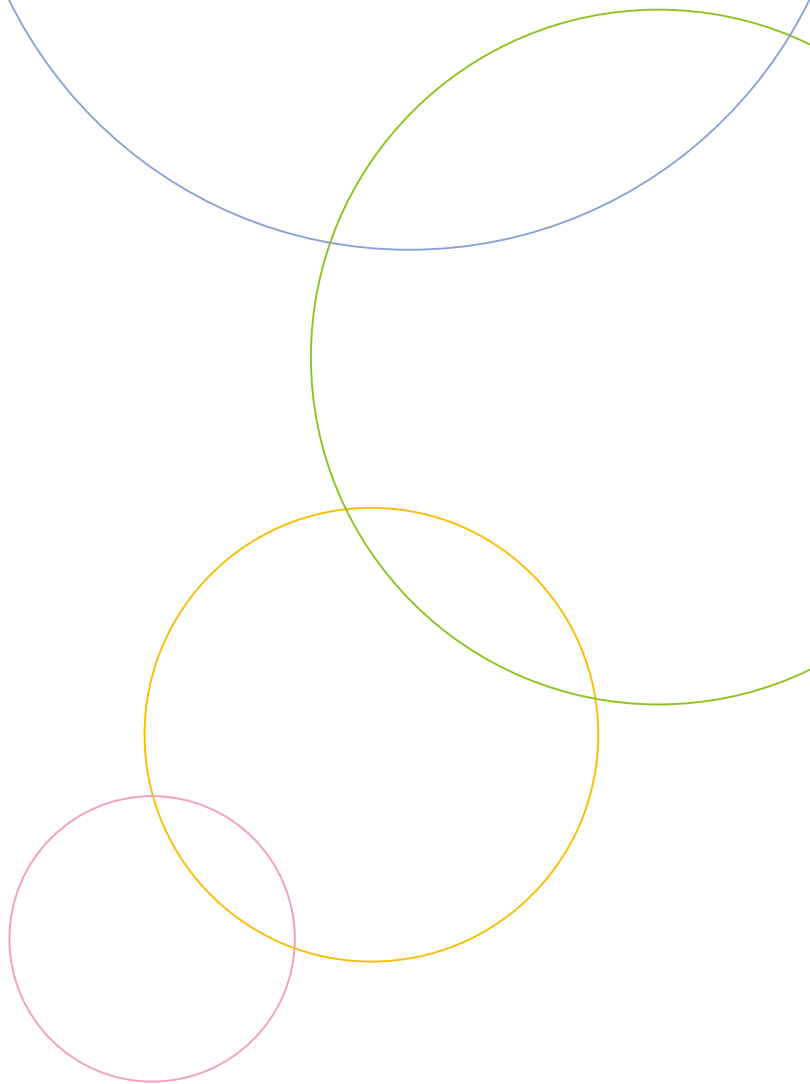
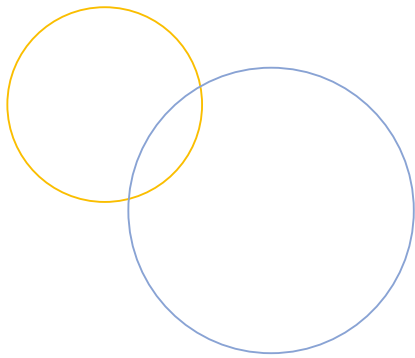
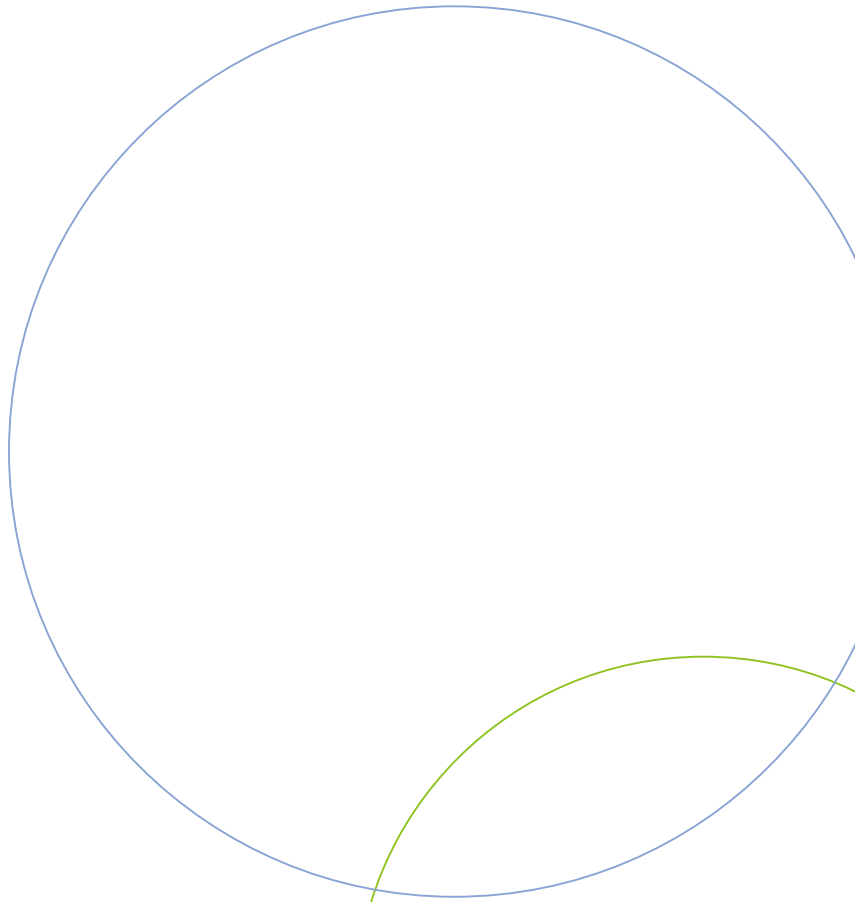
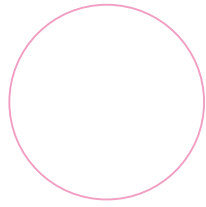
発行 特定非営利活動法人 日本医療政策機構
市民医療協議会 がん政策情報センター

発行人 埴岡 健一

企画・編集 岩井 万喜

制作協力 株式会社カレット <http://www.care-t.co.jp>

日本医療政策機構 市民医療協議会 <http://shimin-iryuu.org/>
がん政策情報センター <http://ganseisaku.net/>



特定非営利活動法人 日本医療政策機構
市民医療協議会 がん政策情報センター